

墨田区総合教育会議 議事録

1 日時等について

日時	平成28年11月14日(月) 午後6時00分
場所	すみだ生涯学習センター マスターホール
開会	午後6時00分
閉会	午後8時15分
出席者	
区教育委員会委員	山本 亨
区教育委員会委員	加藤 裕之
区教育委員会委員	雁部 隆治
区教育委員会委員	阿部 博道
区教育委員会委員	坂根 慶子
区教育委員会委員	浅松 三平
第一部 基調講演	
講師	
武蔵野大学教育学部教授	庭野 正和
第二部 パネル・ディスカッション	
パネリスト	
主任児童委員	岸田 玲子
第三吾嬬いきいきスクール 運営委員会副委員長	小出 昭
竪川中学校学校支援 地域協力会副会長	志波 洋子
文花中地区青少年 育成委員会委員長	田口 武司
総合司会	
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸川 紀子

2 議題について

第一部 基調講演

第二部 (1) 墨田区教育施策大綱の紹介

(2) パネル・ディスカッション

3 議事の内容について

庶務課長 ただ今から墨田区総合教育会議シンポジウムを始めさせていただきます。初めに、シンポジウムの開催にあたり、山本区長より皆様にご挨拶をさせていただきます。

区長 本日はお忙しい中、墨田区総合教育会議シンポジウムにお出でいただきまして、ありがとうございます。また、日ごろより墨田区の教育の推進や学校支援に携わっていただき、誠にありがとうございます。この「総合教育会議」とは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、自治体の長が設置し、教育委員会と一緒に教育施策の推進を考える場として設置したものです。この法律改正は、平成23年に起きた津市の中学2年生の自殺という傷ましい事件を発端に、様々な議論を経て、昨年4月1日に施行されたものです。教育の政治的中立性や継続性・安定性を確保しながら、責任体制を明確にし、迅速に危機管理を行えるよう、地方公共団体の長と教育委員会との連携を強化するという内容のものです。私としても、このような連携は非常に重要だと考えており、昨年度「墨田区総合教育会議」を設置させていただきました。4回にわたって、様々な教育施策の議論を活発に行い、それを「墨田区教育施策大綱」という形にまとめあげました。本日、お手元に配付させていただいております。その中で、私が大切にしたのは、21世紀を生きる子どもたちが積極的にさまざまな人やいろいろなことに興味・関心を持って、新しい時代を意欲的に生きてほしいということです。後ほど、教育施策大綱については様々、ご議論いただきたいと思います。また、本年6月には、23区で初となる「墨田区総合教育会議条例」を制定させていただきました。これは、このような議論の場をできる限り公開し、区民や関係者の皆様のご意見を反映させようというものです。今回、このシンポジウムについてもそのような思いで開催させていただきました。シンポジウムの開催にあたり、ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。本日のシンポジウムは2部形式となっており、第一部に武蔵野大学教授の庭野先生にご講演いただいた後、第二部として、区民や教育委員会の皆さんの参加するパネル・ディスカッション方式で総合教育会議を実施いたします。様々なお話をいただきながら、区長として教育委員会と連携し、墨田区の子どもたちのために施策を推進してまいりたいと考えていますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

第一部 基調講演

庶務課長 山本区長ありがとうございました。それでは、第一部の基調講演に移ります。本日も講演いただく庭野先生は、大学を卒業後、千代田区立神田小学校に着任され、教育委員会の指導主事、東京都教職員研修センターの統括指導主事などを経て、品川区立京陽小学校長、同荏原第二中学校、また同小中一貫校荏原学園学校長を歴任されて、現在、武蔵野大学の教育学部教授として教鞭を執っていらっしゃいます。本日は「墨田区教育施策大綱」についてのご講演をいただきます。それでは、よろしくお願いいたします。

(庭野講師による基調講演)

庶務課長 庭野先生ありがとうございました。第二部の準備をさせていただきますので、10分間休憩いたします。

(休憩)

第二部 (1) 墨田区教育施策大綱の紹介

庶務課長 時間になりましたので、第二部を始めさせていただきます。初めに、山本区長から教育施策大綱についてお話しさせていただき、その後で、パネリストの皆様からご意見をいただきます。それでは、山本区長よりお願いいたします。

区長 初めの挨拶でもお話ししましたが、昨年度から総合教育会議で議論を行い、今年の6月に、「墨田区教育施策大綱」を策定いたしました。お手元の資料をご覧ください。表紙に記載しましたが、副題を「～すみだの子どもたちの夢と希望の実現のために～」とし学校教育の分野に重点を置いた大綱としています。表紙をめくっていただきますと、この大綱の体系図を記載しています。「大綱の位置づけ」があり、「目指す子どもの将来像」では、こういう人になってほしいという人間像を掲げています。「将来、社会で活躍し、地域に貢献できる自立した人」、そして「郷土に誇りを持ち、異文化とも敬意をもって積極的に交流できる国際感覚のある人」です。こうした人に育てていくために、「施策の方向」はどうするか。「施策の方向」では、大きく「区立学校にかかる施策」、「家庭・地域の教育力の向上」と「学校と地域との協働」に分けています。本日はその中から、一緒に、改めて考えていきたいと思えます。本日もご参加いただき、パネリストの皆さんをご紹介します。会場から向かって左から、教育委員会の浅松委員、坂根委員、阿部委員、雁部教育長職務代理人、加藤教育長です。向かって右側は、先ほどご講演いただきました庭野先生、第三吾嬬いきいきスクール運営委員会副委員長の小出さん、主任児童委員の岸田さん、豎川中学校学校支援地域協力会副会長の志波さん、文花中地区青少年育成委員会委員長の田口さんです。どうぞよろしくお願いいたします。

第二部 (2) パネル・ディスカッション

区長 それでは、パネリストの皆さんのご意見を伺いながら、進めてまいりたいと思えます。まず、「家庭・地域にかかる施策」について、各家庭では生活規律や挨拶の習慣づけ、また、スマートフォン等の情報端末の利用に係る課題等があると思えます。小出さんは、保護者の立場から具体的にどのような課題があるとお考えですか。

小出氏 SNSはじめ、スマートフォンが発達し、みなさんの手元に行き渡るようになった今の時代で、子どもが子どもの頃のゲーム感覚とはまた違い、複雑でありながら子どもたちを誘導するような仕組みが施されているような気がします。したがって、子どもの頃よりもはるかに今の子どもたちはゲームをきりのいいところで手放すことができない、何かにつけて事柄に誘導されているような気がしてならないと感じています。我々保護者がその仕組みに乗っかってしまうのは、元も子もないので、まず自分たちを律することが大事だと思えます。そして、様々な家庭環境の保護者がいますが、食べる時間や寝る時間を決め、仕事などでどんなに予定がずれてしまっても必ずお風呂に入り、一緒に寝るといような習慣を我々大人が守っていかないと、子どもは大人をよく見ているので、その瞬間に流され、それで良いんだと思いかねないし、実際に学校活動に関わる中でそういうことを聞いています。その点について保護者が気を付けて生活を守っていくとともに、地域の方々と自然に挨拶を交わしたり、そういった振る舞いを子どもたちに言い聞かせるのではなく、普通に挨拶し、言葉を一言二言交わすこと、日常生活の中でのあり方を

学校の勉強の中で先生方に指導していただいておりますが、それ以外の躰の部分、知徳体の「徳」の部分、人としてどうあるべきかを、いきいきスクール運営委員長の粕谷さんが立ち上げの頃から情緒性を育む上では、そこを大切にしていきたいとお話されていて、そのところも学校ではなかなか先生方もお忙しいので、我々が子どもたちに進んで体躯で示していくことが特に今の時代は必要なのではないかと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。多くの子どもや保護者と接する中で、大人の誘導というお言葉をいただきましたが、確かにそういったことがあるのだとみなさん同じ思いでいるのだと思います。そういった意味で、家庭が子どもたちにきちんと関わるのが大切ですが、ゲームのきりの良いところというお話がありましたが、どこまでがルールでどこまでを子どもに伝えていかなければいけないのかというところで、きりの良いところがどうもわからない。小出さんは、現在、第三吾嬬小学校の放課後のいきいきスクールの運営に関わっていらっしゃるんですよね。どのようなきっかけで始めて、どのようなことにお感じになっていらっしゃるのでしょうか。

小出氏 私は、第三吾嬬小学校のPTA会長を引き受けさせていただいたことがきっかけで現在の活動と関わりができました。とは言え、もともと地域に暮らしている人間でしたので、町会のもちつき大会や盆踊りなどの行事には関わっていました。あとは、子どものことを母親任せにしていたこともありましたので、父親としてできることをしていくべきなのかな、そういう時期にきたのかなという思いで、学校に行けるときには足を運び、放課後など子どもたちの様子を見るようになりました。そうしていくと子どもたちが私を見て「あ、先生だ」「先生がなんで配達しているの」などと声を掛けられるようになり、嬉しさや恥かしさもあるんですが、その子どもたちが進学していくにつれて「小出会長」「小出社長」などと大人みたいな声掛けをしてくれるようになり頼もしいと感じます。そして、その掛け合いの様子をまた低学年の子どもたちが見て真似をするということがあります。そういったことで学校と子どもたちと地域の一体感みたいなものを生活する中で感じる瞬間があり、それは何か特別なことをしているわけではなく、当たり前前に単純なことを積み重ねてきた結果、そういったことを感じることを周りの保護者の方にも伝えていければ良いのかなと思います。そういった思いで、残された任期の中で少し違った角度での考え方など保護者の方に情報提供できれば良いと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。奥さん任せから自分も参画するというきっかけはとても大事なことなのだと思います。あとは、子どもたちと接する機会とそういった人を増やしていくことが重要だと思います。そのきっかけとして子どもたちが声を掛けてくれるという人間関係は素晴らしいと思います。小出さんからはPTA会長として、いきいきスクールの副委員長としてご意見をいただきました。ありがとうございました。教育委員の中でもPTAや地域でご活動されているのは雁部委員でございますので、親子の関係や地域とのつながりについて感じていること、また課題やその対応方法などご意見をいただけますか。

雁部委員 小出さんのお話のとおり家庭における取組は言うまでもありませんが、家庭環境作りは親に責任があると思います。スマホについては、最低限のルールを決めて使用するということが、あと会話は顔を向き合わせてすることが大事だと考えます。同じ言葉でも表情を見たり、間近で見ることが必要だと思います。スマホは便利な部分がありますが、顔を合わせて会話をすることを推進した方が効果的であると考えます。地域については、保護者が積極的に地域や学校に関わるのが大事で、情報端末では得られない人間関係を形成できると考えています。親子一緒に学校や地域の行事などに参加することは、挨拶の習慣化にもつながり、子どもの教育に良い影響を与えたいと思います。保護者と学校、地域で共に育む「共育」が大事になると考えています。私は、PTA会長を経験し、今は町会の副会長としても活動しています。今思うと学校と地域に

見守られながら育ったなど実感しているところではございます。以上です。

区長 ありがとうございます。やはり顔を合わせて会話する、目と目が合いお互いがコミュニケーションをとる大切さがあります。スマートフォンについては、ルールを子どもに理解させ、当たり前のように守らせること、コミュニケーションをとるということは会話をするということであるという雁部委員のご意見は、そのとおりだと思います。続いて、岸田さんは主任児童委員をしていただいています。主任児童委員についてご存じでない方もいらっしゃるかもしれませんので、まずは主にどういった活動をされているのかお話しいただけますか。

岸田氏 民生・児童委員は、担当区域の中で高齢者の問題やハンディキャップのある方の福祉の問題、さらに児童の問題に関わる相談を受けたり、関係機関への橋渡しの役割を担ったりしています。民生・児童委員の中で特に子どもの福祉に関する相談・支援活動を行うのが主任児童委員です。「主に児童を任せられた委員」というのが主任児童委員になります。平成6年から設けられた制度です。墨田区内で187名の民生・児童委員がいて、そのうち14名が主任児童委員として墨田区全域で活動しています。委員をしている方は、いずれも子どもに関わる知識や経験が豊富な方が多く、守秘義務を守りながら、虐待、いじめ、不登校など子どもに関する様々な問題を学校や区役所、子育て支援総合センター、児童相談所などの行政機関と連携し、また地域の民生・児童委員とも協力し合い、見守り活動を行い、子どもが幸せに暮らしていけるようお願い活動しています。主任児童委員として活動していく上でのスローガンは、「のびのび育て すみだの子ども」です。私が襟につけていますオレンジのリボンは、虐待防止の願いを込めたもので、11月は「虐待防止推進月間」となっています。まだなかなか浸透していないと思いますが、虐待が疑われる場合には「189（いちはやく）」にご連絡をいただければ、各児童相談所にすぐつながるようになっていきます。これは匿名でも構いません。連絡を受けた児童相談所では、「48時間ルール」というものがあり、48時間以内に虐待を受けているかどうかの真偽を確かめなければいけないルールとなっています。ぜひこの主任児童委員を覚えていただき、また「189」も覚えていただき、何かありましたらすぐに駆けつけますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

区長 ありがとうございます。主任児童委員として関わっている子どもや家庭は、何らかの課題を抱えているということですね。そういう状況の子どもや保護者とお付き合いしていくには、信頼関係がとても重要なお仕事だと思いますが、日ごろ気を付けている点やそうしたお仕事を通じて感じることはどんなことですか。

岸田氏 課題のある子どもに関わると、その原因はほとんど子供自身にあるのではなく、背景として家庭環境にあることがわかってきました。具体的には経済的事情やご主人によるDV（ドメスティック・バイオレンス）、育児放棄などの虐待、保護者の病気による養育困難などが原因となっています。ある事例では、いじめをしていた子が父親から虐待を受けていたことがありました。こういう問題は、学校など一つの機関では関われないケースがほとんどです。いま私たちは子育て支援総合センターを核として情報提供や見守り活動を行っています。さらに地域の方々の力も不可欠だと思います。いま私は小学校の登校班への挨拶運動を心掛けています。なかなか挨拶が返ってこないのですが、最近は子どもの方からお話してくれるようになりました。そんな楽しい時間を過ごすことができている。他の区の保健師から聞いたお話ですが、あるシングルマザーが地域の方から声を掛けられたことがあり、それが自分も地域に受け入れられたんだと安心し、それから相談窓口に出掛けられるようになったということがあったみたいです。また私の体験ですが、ある小学1年生がいて、その子は好奇心旺盛で登下校時コンビニに行ったり、店先で寝転んだり寄り道が多く、学校でもとても心配され登校時に先生が途中まで迎えに行くことがあり

ました。地域の方々もその子のことは十分承知していて、見かけると「早く学校へ行きなさい」「暗いから気を付けて早く帰りなさい」などと声を掛け、いつも注意深く関心を持って見守ってくれていました。心配な家庭の子どもに対して関心を持つことが大事だと思います。興味ではなく、関心を払うことで家庭や子どもが変わっていったというケースもあります。これは一つの地域力だと思います。この力を地域の見守りネットワークとして構築できれば幸いだと思います。子どもの泣き声の通報が多くなっているということです。これもみなさんが子どもに対して関心を持っている証だと思います。あたたかい墨田の地域力です。孤立する家庭を少しでも外界との接触を引き出せるのは地域の力であり、地域の情報をできるだけ広く多く集めていくことが我々主任児童委員の仕事だと思っています。そして、その情報を行政機関、子育て支援総合センターなどに提供し、連携を強化しながら支援につなげていくことができれば良いと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。子どもに関心を持つということ、挨拶運動などそういったことに関わる人が一人でも多く、きっかけを作っていくながら、墨田区の子どもたちが一人でも虐待などによる悲しい思い、辛い思いをしないように我々大人は協力し合っていかなければいけないと思います。シングルマザーのお話がありましたが、地域の仲間であることを感じてもらえることがあるとしたら、子どもたちに限らず、相談したいけどなかなか言いづらいという人にもぜひ優しくあたたかい目で見えてあげることが大事だと感じました。阿部委員は弁護士としてご活動されていますが、教育委員としてもご活動いただく中で「家庭・地域の教育力の向上」という点でお感じになっていることなどありますか。

阿部委員 私が日頃教育委員として、子どもたちの健やかな成長のため、取り組むべき大きな課題の一つとして、いじめの解消と不登校の問題があると思います。この問題はいろいろな要因が複雑に絡み合っているので、様々な切り口から根気よく取り組む必要があると感じています。「家庭・地域の教育力の向上」という切り口からこれらの問題を考えると、根っここのところの問題として、ご家庭における小さい頃からの教育力に期待するところがとても大きいと思います。例えば、いじめに関して言うと、子ども達が小さいうちから、人と関わる上でのルールやマナーをご家庭で教え、育む必要があると思います。何が良いことで何が悪いことなのか、この根っこの部分の価値観をご家庭でしっかりと育てていただく必要があると思います。そして、その根っこが栄養を吸収するように、保育園や幼稚園、小学校、中学校と進級していく中で、学校での道徳教育や人権教育、それから友達と勉強したり、地域と関わりを持つことにより道徳観念や人格形成が少しずつ体系的に備わってくるのではないかと思います。そういう意味では、そういう土台や人格を形成する上でのご家庭、親が子どもの基本的な価値観を育てていただくことが重要だと思います。ただし、子育てはその過程で色々な迷いや悩みが生じると思いますので、行政も相談などの支援体制を構築しなければならないと思います。いじめ問題に関しては、法律も制定され、墨田区でもいじめ防止対策推進条例も制定され、あるいは学校の場面でも色々な制度が整ってきたり、カウンセラーの配置や相談体制の構築など段階的に整備されてきています。しかし、いじめの根本は、やはり心の問題でもあると思います。いじめの原因を考えると大人の社会を見ても、偏見や差別、やり場のない不満などが原因となり嫌がらせ、誹謗中傷が後を断たない状況が残念ながらあります。子どもは大人の鏡であるので、子ども自身にストレスが溜まったり、対応できないような問題を抱えながら心が荒んでいじめに走るのではないかと思います。したがって、人が関わる場面では、軋轢や対立は起こりうるということで、いじめの解消については日々気を抜かず努力を重ねる必要があると考えています。墨田区教育施策大綱の「目指す子どもの将来像」の(1)イにあるように「自己肯定感を育みながら、まわりの人の立場や気持ちを思いやること

ができる人」と心の問題について提言がなされています。まずは、家庭で子どもの基本的な道徳観念を育みながら、年齢とともに学校や地域社会など色々な関わりの中で、人格形成をしていければと思います。他方で不登校の問題も大きな課題です。これはいじめが原因である場合もあると思いますが、学校の授業について行けないとか、学校が面白くない、ご家庭に課題を抱えている場合など様々な要因があり、それらが複雑に絡み合って、なかなか解決できない状況があると思います。この問題も、日々先生方が色々な取組の中で努力されていますが、これも根っこの問題として、子どもたちが、学校が楽しい、仲間と楽しい時間を過ごせるといったような心が安定することが必要ではないかと思います。そのことは、とりも直さず子どもたち一人ひとりが大事にされて、誰も替えることができないかけがえのない存在であり、周りから必要とされ、他に役に立てる存在であるということをしてどのようにしたら実感してもらえるのか、これは言葉で説明して理屈はわかって、自分の感覚として役に立っていること、大事にされていることの実感がないと、なかなか気持ちが向かないと思います。そのためには、先ほど小出さんのお話にもあったように、例えば学校や地域の行事、大人との関わりの中で自分が地域で役割を果たす、あるいは貢献をするという体験をすることで、自然と自己肯定感が醸成されるのではないかと思います。積極的にそういったところに子どもを参加させていただきたいと思っています。先ほど岸田さんのお話にあったように虐待など課題のある家庭があるということで、地域で行政に繋げたり、ネットワークを活かすというご提言がありました。やはりこのネットワークを活かすことが大事だと思います。私の個人的な見解を申し上げますと、いわゆる見守りはこれまで十分なされてきているとは思いますが、見守りから積極的に一歩踏み出して支援する、子どもたちが自立して社会に出て然るべき時期に至るまで支援が必要な場合には、見守りからもう一歩踏み込んで積極的な支援などを行うことが、墨田区が都市としてよりよく成熟していく過程の中での課題ではないかと思います。今後検討していただければと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。まず、いじめ問題については、根っこのところの課題として家庭の教育力というご指摘がありました。それから、自己肯定感の醸成については、子どもたちが社会参画し、体験を積んでいくというご提案もありました。さらに、見守りからもう一歩踏み出すことについては、まずは様子を見て、そして少し声掛けをして、さらに一歩踏み込むことも必要なのではないかと貴重なご提案もいただきました。行政もそういった発想を取り入れながら物事を見ていくことが今日的課題の解決につながっていくのではないかと思います。庭野先生は、いくつかの自治体で教育者として活動してこられた中で、「家庭・地域の教育力の向上」という観点で、先進的な取組などご存じであればご紹介いただくとともに、これまでの話を聞いてご意見をいただければと思います。

庭野氏 2, 3点お話をさせていただきたいと思っています。1点目は、小出さんのお話にもありましたが、子どもの放課後の支援についてです。5年前の震災で被災した石巻市では、未だ学校が復興していません。それでも子どもたちは放課後に集まりたいという気持ちがたくさんあります。しかし、学校としてそれがなかなかできない状況です。その状況の中でNPOが立ち上がって、子どもの放課後支援に取り組むようになりました。私は、8月に2回ほどそこに行きました。そこでは、親や兄弟を亡くしている子や家が津波で流された子など悲しみを持っている子どもたちがいましたが、一緒に集まれるところがあることでそういった子どもたちが明るく振る舞えることがあります。そのように自治体だけでは行えないことがある場合は、地域やNPOの方々の力を借りることでカバーできるのではないかとという一例です。それから、スマートフォンのお話もありました。顔と顔を向き合わせないとなかなかコミュニケーションが難しくなってしまうという言葉の問題ですね。私もそう思います。面と向かって話せば、そんなに強い言葉や汚い言葉は

出さないとと思いますが、それがスマホを使って指先でやってしまうのでつつい強い言葉、汚い言葉、罵る言葉を発してしまい、自分が思ってもいないことを言うてしまうのではないかと思います。そのあたりの自制についてどのようにしたら良いか、色々難しいところがありますが、今後検討する必要があると思います。次に、岸田さんのお話の中で声掛けや挨拶をしているということですが、そのことについては私もそうですがつつい相手からの返事を期待しています。そうなる自分が惨めな気持ちになってしまいます。自分が声掛けしようと思ったら、相手がどのような反応を示すのかわかりませんが、心構えとして返事が返ってこなくてもいい、どうして声を掛けてくるんだろうという子どもの思いを抱きながら毎日取り組んでいくと、いつかこの人はここに住んでいるんだ、いつも優しく見守ってくれている人なんだと子どもたちが思うようになり、子どもたちと地域や子ども同士、あるいは子どもと親とでコミュニケーションが図られていくのではないかと思います。ソーシャルネットワークはそうした地道なところで取り組んでいくと構築されていくのではないのでしょうか。ぜひその点について考えていただけたらと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。石巻市の例から、そういう温かい居場所、人々の中で子どもたちは育っていくのかなと思います。それから、挨拶については返事を求めないというスタンスは大事なご指摘だと思います。続いて、次のテーマに移りたいと思います。「学校と地域との協働」についてお話を伺いたいと思います。志波さんは、豎川中学校の学校支援地域協力会の副会長ということですが、こういった活動をされているのかご紹介いただけますか。

志波氏 はい、豎川中学校の学校支援地域協力会の活動についてご説明いたします。この活動が始まったのは、平成23年度からでした。そのきっかけは、平成22年度末に当時の豎川中学校の根深校長から予備校の先生を招いた学習会（パワーアップ学習会）を開催するための組織を創ってほしい旨の依頼があったことでした。私と現任会長、亀沢四丁目の町会長で同窓会の会長をされている方、それから私とともにPTA活動に取り組んだ優秀なスタッフ2名の総勢5名で現在活動をしています。パワーアップ学習会のための組織として立ち上げましたが、せっかく活動するのであれば様々なかたちで学校に協力したいと思い、3つの柱を立てました。その1つは学習支援としてパワーアップ学習会の開催です。予備校の先生を招いて、主に3年生を対象として、都立高校の入試に備えた授業を行っています。昨年度からは拡大して、1、2年生も対象として行っています。二つ目は、部活支援です。これは地域の方で部活の指導をしてくれる方がいたらいいねということから始まったのですが、なかなかそういった方がおらず難しい状況ですが、手作りのうちわなど応援グッズを作り、応援に行っています。3つ目は、職業体験支援です。これは、生徒が職業体験を行う際に体験先を地域で開拓していくということです。以上3つを柱としています。その他に豎川中学校で学校やPTA、地域による豎中フェスティバルのお手伝い、講演会、それから地域の方が面接官となる面接練習会も主催しています。以上です。

区長 ありがとうございます。まさに、学校と地域の協働を実現していただいているのだと思います。ただ、平成23年度から活動している中で、どうしても多少の課題もあるのかなと思います。どんな課題をお感じになっていて、今後どうしていったらより良い活動になっていくのかをお話いただければと思います。

志波氏 先ほどお話いたしました面接練習会は、一昨年に実施し始めましたが、これは豎川中学校の西村校長から要望があったことをきっかけに始まりました。豎川中学校では、個人面接のほかに集団討論も行っています。これを一日で3年生全員に行うので、多くの面接官が必要になります。そのために地域の色々な方々に声を掛けました。育成委員会や町会、民生・児童委員、保護司の方、同窓会、地元の企業の方です。そういった方々みなさんが快く協力してくれて、面接

会当日には40人ほど集まっていたいただきました。これほど多くの方々が協力していただいたのは意外で驚きましたが、みなさんのお話を伺うと学校に協力したいという気持ちを持っている方が潜在的に多くいました。ただ、どのように関わっていいかわからないという方が大勢いました。こうしたかたちで地域と学校を結びつける架け橋的な存在になれば良いと思います。また、豎川中学校の校長や副校長、他の先生方もこの活動に理解し、とても協力してくれているので、この体制のまま続けていけたら良いと思います。あとは、我々スタッフも子どもが卒業して何年も経っているので、いまの保護者の学校へのニーズとかけ離れないために、新しいスタッフを入れるなど、いかに学校との距離感を保っていけるようにするかが今後の検討課題です。以上です。

区長 ありがとうございます。私も初めて聞きましたが、40人程の地域の方が面接官として手伝ってくれていることはすごいことだと思います。それから、協力したいけどもどうしたらいいかわからないと思っている方はどこの地域にもいると思います。そういった方々をどのようにして参画していただくのかという工夫を検討していかなければならないほど、こうした学校支援を実践していただいていると思いますが、やはり課題はあるようです。坂根委員も教育委員だけでなく他の行政に関わる委員も務めていただくとともに、また地域でもご活動いただいておりますが、何かご提案やご意見をいただけますか。

坂根委員 志波さんのお話にあった面接練習会やパワーアップ学習会は素晴らしい取組だと思います。子どもたちは家庭と学校以外で大人と接する機会は意外と少ないです。そういった状況だと子どもたちが大人にどのように対応したら良いのか戸惑います。それを学ぶ上で、このような取組は貴重な機会の提供になっているでしょう。今後も継続していただきたいと思います。先日、豎川中学校の文化祭に参加してきました。三味線とビブリオバトル、吹奏楽を拝見しましたが、ご覧になった地域のみなさんの多くが帰り際に、とても中学生とは思えないくらい素晴らしかったと言っていました。そういった成果の背景には地域の方々の協力があると思います。他の地域から来た住民の方や先生方からは、墨田区では地域の方がとても学校に協力してくれると伺っています。ただ、志波さんのお話にもあったように学校に協力したいけれど何をしたら良いかわからない方もいらっしゃるでしょう。そういう方には自分のできることや費やせる時間と学校や志波さんのようなコーディネーターが考えていることと合わないのではないかと躊躇されたり、また謙虚に自分がいることで邪魔になるのではないかと考えている場合もあるのではないかと考えます。ぜひそういった方々の不安を取り除いて学校に来てもらえるようにすると良いと思います。例えば、生徒が考えた防災対策について、地域の方が一緒に考えることにより、具体的に出来ることが思い浮かぶかもしれません。それから、5月のPTA協議会において小出さんともお話ししましたが、PTAでも全会員が一人ひとつ、1年に1回、1時間でも何か出来ることを考え、してはどうかと学校に提案することも良いと思います。例えば一輪車などの遊具の掃除をするなどいろいろできることがあると思います。ただ、そこで無理をしないことが大事です。また、庭野先生のお話にもありましたが、自分が頑張ったことの成果が芳しくなくてもがっかりしないことです。それと同時に、相手側からの反応がなくてもめげないことが大事です。あとは、コーディネーターなどの方に労いの言葉を掛けると良いと思います。基本的には地域と学校の連携は今のかたちで続けていくことがベストではないかと思っています。また、よりきめ細かく取り組んでいくためには隣近所の3人程度の小グループで活動することで、より良いコミュニケーションがとれるのではないのでしょうか。議会や行政には、そのための資金や場所の提供をぜひお願いしたいと思います。行政には特に広報の充実をお願いしたいです。今は、広報紙での伝達のほかにSNSなど様々な形での広報の仕方がありますが、世代に合った広報活動を行っていただければ良い

と思います。次に自己肯定感についてです。自己肯定感というのは、自分の所属すべき集団以外の集団が多いほど確実にになります。分かりやすく言うと家庭や学校、職場は所属すべき集団で決まっています。それ以外の趣味やボランティアのグループなどは自分で選べ、気に入らなければそこから抜けることもできます。自分で選び、所属している集団が多様であればあるほど自己肯定感は上がります。例えば、子どもが学校に行きたくないなと思っても、地域のスポーツグループなど他の集団内で褒められると、勉強にも意欲が出ることがあると思います。学校協力も基本的にはボランティアということなので、大人のみなさんが、自分が退職後何をするのかを念頭に、自分の所属できるグループを増やしていくという感覚で参加していただければ良いと思います。私事になりますが、私は忙しい時期にも仕事も家庭のことも趣味も地域活動も辞めずに行ってきましたが、これからは楽しく行うことが重要だと考えています。色々な場に参加することが楽しいと思えるような機会をみなさんに作っていただきたいと思います。最後に挨拶についてです。これはみなさんのお話にあったように声掛けをすることが大事だと思います。また子どもに声掛けする以外に、子育てで大変な保護者の方にも声掛けをしてほしいです。親になると褒められることがなかなかないと思いますので、ぜひそういうことをお願いしたいです。墨田区の子どもたちは挨拶がしっかりできています。私が学校に行くと子どもたちは「です・ます」でちゃんと話しているのを見聞きします。大人が差別的な言葉や不適切な言葉を使うと子どもはそういう言葉を使っても良いのだと考えるので、言葉遣いは大事です。子どもの良い例になるように大人も気を付けることが大切です。以上です。

区長 ありがとうございます。前段の地域との協働という点について、具体的なアドバイスをいただきました。無理しない、めげない、労うことはとても大事だと思いますが、学校でも日常の中で地域との協働というテーマで色々やり方があるかと思います。志波さんのお話にもありましたが、ぜひこの点について検証し直して、よりよい協働の方法を考えていただくきっかけになったのではないのでしょうか。田口さんは、青少年育成という分野で幅広くご活動いただいておりますが、中学生との協働という点で事例を紹介していただけますか。

田口氏 文花中の育成委員会は発足して17年になりますが、文花中は墨田区で初めての統合校です。そのときに生徒たちに何かやりたことはないかと聞いてみたところ、縁日みたいなことをやりたいという意見が出ました。統合前にも育成委員会でそのようなことは行ってきましたが、その活動を止め、生徒たちの意見を取り入れた地域ふれあい祭りを新たに開催することになりました。おかげさまで17年間開催してきて、今年は約1,800人の方に来ていただきました。区長にもお越しいただき、生徒たちもとても喜んでいました。このふれあい祭りでは生徒実行委員会を設けていて、夏休み前から活動しています。1、2年生の生徒30人程度で構成されています。そこでは生徒たちが今年のふれあい祭りをどのようにしたら良いかを企画しています。そのまとまった案を育成委員会の実行委員会において検討して、実現可能な企画を精査した上で、生徒実行委員会へ文書で回答しています。そういったかたちで企画段階から生徒たちが関わっていくことが私たちの地域ふれあい祭りの特徴です。今年は生徒170名、地域・保護者の方160名がボランティアとして参加いただきました。それから文花中では地域対応委員会という組織があります。これは長谷川現本所中学校長が立ち上げてくれまして、教員の方が中心となって、私たち育成委員会や地域の行事に協力してくれています。あと1月の末に地域音楽祭を開催していますが、今年度は初めて全小・中学校が参加し、ゲストの方もお招きしています。この行事の進行は全て文花中の生徒がやっています。そういった意味で育成委員会の活動において生徒は必要不可欠な存在となっています。また、文花中の活動で特徴的なことは、生徒たちによるレスキュー隊の結成です。地域の防災訓練に参加し、とても好評を得ています。先日、東京都の防災館

から動画を作成したい旨の依頼がありまして、私の町会の防災訓練の様子を撮影しましたが、特に中学生の活動にスポットを当てて撮影をしてくださいました。私たち文花中の生徒の活動がそのようなかたちで評価されたのだなと感じています。最後に、これから12月に学校と地域、それから私たち育成委員会で連絡会を行います。ここでは、学校や地域の行事などの予定を擦り合わせて、行事の日程が重ならないようにすることを目的としています。以前は学校の行事と重なることがあり地域の方からクレームがありましたが、この連絡会を行ったことで日程が重なることが減り、地域の方からも助かっているというお言葉をいただいています。以上です。

区長 ありがとうございます。活発な文花中地区における様々な活動を具体的にご紹介いただきました。これは各中学校の地区においてもそれぞれ特色ある取組をされているかと思います。そういった活動を通じて、中学生はどう変わっていくのか、どういった存在であるべきなのか、どのように感じてもらっていますか。

田口氏 先ほどお話しましたレスキュー隊については、地域の方の高齢化が進んでいる中で、もし災害があった場合に対応できないことがあります。そういった意味で、中学生によるレスキュー隊は地域の防災訓練に参加することによって災害時に活躍してくれることが期待できます。それから、挨拶というお話もありましたが、ふれあい祭りは学校の生徒、先生、それから地域が一緒になって開催しています。その中では生徒と地域の方の交流が図られます。そうすると普段の生活の中でも生徒が挨拶してくれるようになったという地域の方のお話も聞いています。そういった意味でこちらも声を掛けなければいけないのですが、中学生も声を掛けてくれます。また、中学生は地域の行事に参加しないというお話をよく聞くのですが、生徒たちに何か役割を与えたり、分担することで力を発揮することがあります。生徒たちがやらないのではなく、私たち大人がやらせようとしないと子どもたちが思っているのです。これからは子どもたちに何か役割を与える方向で進めていただきたいと思います。最後に、これは人事の問題ではありますが、先生方が大量に異動されると、これまで築いてきたものがゼロになってしまうので、できれば少しずつ異動していただければ幸いです。よろしく申し上げます。以上です。

区長 ありがとうございます。子どもたちは役割を与えられるとやる気を持って取り組んでくれると思います。子どもたちにやる気を持たせる取組が必要ですし、これは地域と学校との協働の中で出てくるのかなと思います。そこで浅松委員は中学校の校長のご経験もおありですが、学校と地域の協働についてご意見をいただけますか。

浅松委員 私は、今から10年前の平成18年に校長として他区の中学校に赴任しました。その年の12月に教育基本法の改正があり、学校と地域、家庭の連携・協力が教育基本法の中で明確に謳われるようになりました。それを受けて、社会教育法が改正され、それに伴った放課後子ども教室など、学校と地域との協働に関する様々な施策が全国的に実施されるようになりました。当時校長だった私も学校の経営方針、経営計画の中で学校、家庭、地域の協力・連携・協働については大きな柱として位置付けました。この頃から「協働」という言葉がよく使われるようになり、この教育施策大綱にも盛り込まれています。次期学習指導要領改訂の中で「社会に開かれた教育課程」というキーワードがあります。今後ますます学校と家庭と地域で子どもたちを育てるという一つの柱を実現するために、より強力にタッグを組んで協働していく取組が浸透していくと思います。私は、先ほど田口さんからのお話にもありましたが、これからの学校と地域の協働の在り方を考えたときに、子どもは守られ、育まれる存在という見方のみならず、地域社会の一員として大人の大切なパートナーという視点が不可欠だと思っています。例として、具体的には学校と地域が連携・協力して中学生を地域社会の大切な一員として、防災教育を通して次世代の防災行動力を向上させる取組が考えられます。先ほどのお話にあった中学生レスキュー隊は、地域

にとって頼もしい存在ですし、地域の活性化にもつながると考えられます。東日本大震災の発生初期段階において中学生が避難所で果たした役割は大きかったと思います。私が校長時代の今から4年前に大船渡市の中学校の校長先生から直接お話を伺ったことがありました。炊き出しの手伝いや生活用水としてのプールの水汲みなど中学生がボランティアとして活躍し、まさに大人のパートナーとしていざという時の心強い存在として、校長先生のみならず地域の大人の方々に認識されたとお話をされていました。大船渡中学校を視察した際、校庭いっぱいには被災された方々のために、多くの仮設住宅が建てられ、その周囲をランニングする部活動の生徒が今でも強く印象に残っています。今お話ししたことは、地域社会の一人として地域に関わることで人とつながり、また人や地域社会に役立つ経験が活かされることで、自己肯定感が育っていくという点で大きな意味を持っていると思います。これはまさに墨田区の教育目標にある「挑戦する力」「つながる力」「役立つ力」にも通じるものがあります。また本区の目指すべき子どもの将来像にもつながると思います。いざというときに頼りになる子どもは普段から地域行事に参加し、それこそ企画の段階から子どもたちが関わることで地域の新たな教育力になります。先ほど田口さんからお話があったとおり、地域のお祭りやその他イベントがあると思いますが、そういった中での子もたちの活躍が大事だと思います。子どもたちはいずれ地域の一員としての自覚を基に、社会や地域に貢献できる自立心と社会性を身に付けた人間に成長していくことでしょう。言うまでもなくこれからの学校と地域の協働の必要性はここに在るのではないのでしょうか。最後に、山本区長は区民と直接対話をするタウンミーティングを大切にしていますが、先月中学生を対象に2回も実施していただきました。自分の住んでいるこの墨田区の良さに気付いて、郷土を愛する心を持って将来まちづくり、地域づくりに参画できる機会を中学生に与えてくださったことは、きっと社会の主体的な一員としての意識が子どもたちに芽生えるきっかけになるものと確信しています。これからもぜひ続けていただきたいと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。子どもたちは地域社会の一員であること、大人の大切なパートナーであることについて校長時代の経験を基にしたお話をいただきました。中学生に求めるものとして過大であっては良くないと思いますが、純粋な墨田区の子もたちにそうした思いを持ってもらうことが大事だなと思いました。それからタウンミーティングでは、限られた人数とのお話でしたが、それぞれ考えをしっかりと持っていたことは嬉しいことでした。ぜひそういった子どもたちを先生方には育てていただければ、墨田区の将来として良いなと感じました。庭野先生は、小・中学校の校長のご経験もおありですが、学校と地域の協働についてご意見をいただけますか。

庭野氏 志波さんと田口さんの実践について聞いていて、私が取り組んできたこと、あるいは地域で行っていることとどうしても比較してしまいます。こんなに素晴らしい実践が出来ていたら良かったなと感じているところです。学校としては、ボランティアはぜひやっていただきたいことですが、なかなか地域の方は何をしたら良いのか、どなたにお願いしたら良いのかわかりません。やはり双方の発信が大事ではないかと思います。学校ははっきりと地域や保護者の方に、こういうことをぜひ手伝っていただきたい、力を貸していただきたいということを具体的に発信しないと、地域の方も自分はこの力を持っているけど、学校として望んでいることなのかが不安でなかなか言い出せない状況があると思います。そういった意味でも双方から発信することが大事だと思います。そのためには志波さんのようなコーディネーターが各学校に必要になります。地域においての学校支援コーディネーターの制度は20年近く前からできているはずですが、しかし、なかなか浸透していません。ぜひそれを作っていたら良いと思います。私が関係機関に強く働きかけているところです。それから、田口さんのお話にありましたが、生徒実行委員会を立ち上げてふれあい祭りを開催していることは素晴らしいです。生徒が中心となった

企画であれば達成感や充実感、意欲を得られます。これが自己肯定感につながり、自分の先をしっかりとする力になってくるのではないかと思います。こういうことを地域の方の知恵によって実施できていることは素晴らしいです。学校だけでの知恵ではなかなかできないことを地域の方のご提言によりできていることは、学校の懐の大きさを感じました。ぜひそのように互いに協働することをお願いしたいと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。パネリストのみなさんにそれぞれの課題に分けて、また実体験も踏まえながらお話をいただきました。教育委員のみなさんも色々ご感想があったかと思いますが、教育長から全体を通してのご意見をいただきたいと思います。

教育長 家庭・地域の教育力の向上について、みなさんお話しいただいたとおりだと思います。ただ、家庭にも限界があって言われていることができないご家庭もあるかと思います。私が教育長として墨田区に来たとき、墨田区には地域力があると思いました。そこで地域の方にぜひお願いしたいことは、声掛けです。子どもたちが小さい頃から実践していると、誰かがみてくれる、誰かが話をしてくれる、誰かに話すことができる、自分のことが認められていることが小さい頃からあると大きくなってからもそういう認識でいられるので、ぜひ地域の方にはそういった活動を今後も継続していただきたいと思います。それから学校と地域の協働については、先ほど浅松委員のお話は私も同感で、学校は地域のみなさんにたくさんのことをしていただいています。では逆に学校は地域に何ができるのか。これができて初めて学校と地域が真に協働できるのではないかと考えています。したがって、先ほど田口さんのお話にもあったように防災に関して、子どもたちが役割を果たして地域で活躍できるきっかけになると思います。こういった訓練を積んでおけば、いざというときに動けます。また、熊本で地震があったときは小学生が避難所で自衛隊の方にインタビューして、その内容について新聞を作成し、被災者の方の気持ちを和ませたこともあります。子どもたちを子どもとして見るのではなく、ひとりの人として見ていただければ協働という道が広がっていくのではないかと思います。ぜひ地域の方にはお願いしたいと思います。以上です。

区長 ありがとうございます。教育長から地域へのお願い、学校へのお願いということでお話がありました。本日は、初めて総合教育会議をパネル・ディスカッション形式で開催させていただきました。ぜひご感想を聞かせていただいて、良かった点や悪かった点、工夫した方が良い点などご意見を頂戴したいと思います。またご希望やご要望があれば、ぜひ次回に活かしたいと思います。よろしくお願いします。また、庭野先生には長時間お付き合いいただいて、貴重なご意見をありがとうございました。墨田区では教育委員会、現場、議会、そして私たちと色々な形でチャレンジをしているところです。ぜひ今後とも、色々なご意見やご経験を踏まえたご指導をいただきたいと思います。また、先日ある行事に参加してきました。最初の挨拶をしているときに、整列している子どもが大きな口であくびをしていました。その様子を見た方が、私に「区長、どうして挨拶をしているのに学校は子どもにあくびをさせるのか」と言いました。これは、誰が注意すべきなのかという問題ではなく、誰もが関わるべきことで人に転嫁するものではないと思います。学校や家庭、あるいは他の場面においても子どものためには時に厳しく注意することも必要です。本日は声掛けの話、コミュニケーションの話、中学生に役割を与えることによるやる気の醸成や信頼関係の話など参考になる話を伺うことができました。全地域を網羅した「オールすみだ」で子どもたちを育てていくんだということが、今日お話を伺った中での感想です。ぜひ小学生、中学生の可能性を引き伸ばしていくんだという思いで新たなことにチャレンジしていただいて、独自の取組を行っていただいて、子どもたちを墨田区らしくすくすくといきいきと元気に育てて、挨拶のできる子にしていきたいと思います。本日は長時間ありがとうございました。

これをもちまして第5回墨田区総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

庶務課長 山本区長、パネリストの皆さん、ありがとうございました。本日は、初めてこのような形で教育委員会も出張した中で、総合教育会議を開催させていただきました。多々不手際の点があったかと思いますが、これから色々なご意見を伺いながら、より開かれた会議にしていきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、墨田区総合教育会議シンポジウムを終了いたします。